

● 学生と図書館 ●

「遠い隣国：ロシアと日本」を紡ぐ糸  
 \_\_\_\_\_ 水野庄吾 29

● 図書館員の文献紹介と資料の活用 ●

知っている、知らないでは大違い!! 図書館活用術⑩  
 「MyLibraryの使い方」  
 \_\_\_\_\_ 栄 咲子 30

映画史に残る不朽の名作  
 本学図書館の所蔵本から (9)  
 \_\_\_\_\_ 吉田明弘 31

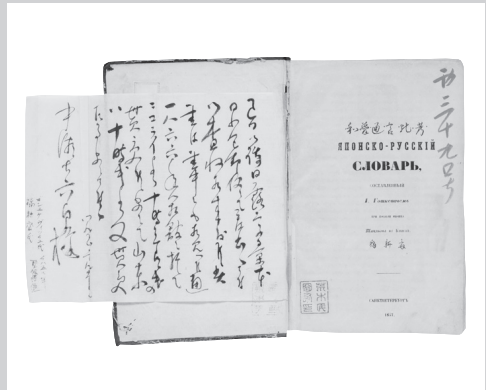
日本の歴史65  
 『はじめての渋沢栄一：探究の道しるべ』  
 \_\_\_\_\_ 稲垣宏行 32

文献紹介 (11)  
 中国史いろいろ  
 中国の食の話  
 \_\_\_\_\_ 戸田奈緒子 33

Book Review Corner \_\_\_\_\_ 34~35

● 図書館利用案内 ●

ライブラリー・カレンダー  
 2021 (4月~6月) \_\_\_\_\_ 36



ヨシフ・ゴシュケヴィッチ 橋耕斎 共編

**Японско-русский словарь  
 Санктпетербургъ**

(Санктпетербург), 1857.

『和魯通言比考』

本書は世界で初めて編纂された日露事典です。安政元（1854）年、日露修好条約の締結を求めて来航していたプーチン艦隊の中国語通訳官ヨシフ・アントノヴィチ・ゴシュケヴィッチが、掛川藩の脱藩士であった立花久米蔵を連れて密かに日本を出国し、ロシアの首都サンクトペテルブルクへ彼を導き入れました。ゴシュケヴィッチは日本来航の際、立花から日本語を学び、ロシア国内での日本語研究を推進する必要性を痛感する中で、立花の才能を活かして、彼とともに日露事典の編纂に着手したのです。

本書の編纂は、それまでにイエズス会などによって刊行されていた幾つかの日本語の研究書や辞書類を参考にしたといわれており、約15,800語を収録してロシア外務省アジア局から安政四（1857）年に出版されました。

なお、本書の成り立ちや編纂された当時の時代背景は本誌24~28ページの「本学図書館のスペシャル・コレクションより64」で詳しく取り上げられています。是非ご一読ください。

また、本書は図書館ホームページの「貴重書デジタルアーカイブ」から全頁の閲覧が可能です。また、今春に開催を予定している京都府立図書館との共催展示会「鎖国時代からの日露交渉史料と同時期のロシア文学」に出展しますので、是非足をお運びいただき、実物をご覧ください。